

暮らし方を

はじめまして、八女に暮らしています

選ぶ Style 4





右上：八女市星野村で蕎麦栽培を始めて、休日には、篠原さん自ら畑を耕しに行きます。

取材日：2016年8月12日



Style 4

篠原 史諭さん

長野県からUターン 「そば季里 史蔵」

長野県からUターン 「そば季里 史蔵」

HISTORY**出身地**

福岡県八女市

移住元

長野県

移住年

2010年

職業

手打ちそば

年代

30代

家族構成

本人・妻・長女

新規起業型

幼い頃からうどん屋に行っても蕎麦を注文するほど、そばが好きだった篠原さんは、八女で蕎麦屋を開業するという夢に一点のくもりもありませんでした。八女に蕎麦文化を広めるという夢の道は、まだまだ続いている。

うどん文化が根強い八女に本格的な蕎麦屋さんを開くために、長野で6年間修行して戻ってきました。向こうでお店を出す話もあつたんですけど、それじゃ面白くない。蕎麦の文化があつて乗っかるのは簡単ですけど、文化を作ることから出来るなら、それに越したことはないなって。

蕎麦の文化を一から自分で作れるなら、そっちの方が面白い

オープン当初、お客さんはまったく来てくれませんでした。修業時代の日記を見たりして厳しい修行時代を思い出しながら「親方がここまで育ててくれたのは、これを乗り切るため」と思って必死に耐えました。毎日蕎麦が余つても丁寧な仕事をしてたらお客様は来る。自分の中でやつてきたことは八女の人に伝わる。絶対丈夫って広告も雑誌掲載も全て断つて口コミを信じました。1年くらい経った頃から手応えを感じることができました。今では、近場だけじゃなく、出張で来た福岡市から、わざわざ八女に足をのばしてくれるお客さんもいます。福岡市の方が蕎麦屋の数は多いのに、わざわざ来てもらえるってのは、ある程度知つてもらえたと思うので、ここからまた自分で開拓して、修行中にやつてきたことをまたしつかりやつていけば大丈夫と思っています。

八女のものは八女でしか食べられないっていうのを作りたい

2年前に星野村で蕎麦栽培を始めました。次は、収穫した蕎麦を八女で製粉する。そこまでを自分で出来るように、機械に投資をして今年（平成28年）の秋からやろうと計画しています。自分で蕎麦を栽培するからお客様に話せることがあります。蕎麦の花が綺麗な時期に星野村を案内して足を伸ばしてもらえる。そう考えて僕はやつてます。

僕は蕎麦でしか繋げることができないんですけど何か可能性がありそうで

八女産の蕎麦粉を沢山作って他の地域でも使ってもらう、じゃないんです。八女で食べて欲しい。うちの店じやなくともいいんです。八女の他の蕎麦屋が使いたいなら「じゃあ一緒にやりましょうよ」と言いたい。そんな店が増え、それぞれの個性が出来る蕎麦が出来たら、今まで蕎麦屋の紹介が出来る。八女の市街地にだけ来て帰るんじゃないなくて、山奥の蕎麦屋さんにもせつかくなら足を運んでもらいたいんです。そうして蕎麦屋のつながりが出来て、八女に蕎麦街道が出来るのが僕の理想です。マップなんかも作りたいと妄想しています。

周りの皆があつたかいんですね。認めてくれる

店の売上げだけを毎日気にして過ごすより、「こうしよう。こうしてみよう」と考える方が面白いです。そんな話を同業（蕎麦屋）じゃない飲食店をやつてる方と話したりすると、蕎麦に関わらず広い視点をもらえたり、ヒントをもらえたりします。

あとは近所のおじいちゃんやおばあちゃん、子ども達がしてくれると嬉しいですね。「ヨシッ！」って気持ちにさせてもらえます。ひとつ地域に認めてもらえたのかなって思います。

できるだけ僕から皆さんに挨拶をしたいと思っても、先に挨拶してもらつて悔しいくらいですね（笑）



篠原さん